

## 11

たかしま

えちご

ぼん おど

ぎょうじ

## 高島越後盆踊りの行事



- 保存団体：高島越後踊り保存会
- 問合せ先：小樽市教育委員会教育部生涯学習課（TEL 0134-32-4111）

江戸時代からニシン漁の大漁場として知られた高島地区では、本州からの移住や往来が盛んに行われました。特に津軽地方と、新潟県北蒲原郡紫雲寺（現在の新発田市）から多くの移住者が集まり、その土地の風習が高島に持ち込まれました。

中でも紫雲寺出身者が伝えた盂蘭盆会の行事は、「越後踊り」「越後盆踊り」と呼ばれ、古平、石狩、三笠、白老など北海道各地にも広がっていきました。

越後踊りは17世紀末頃越後地方で成立した踊り唄に起源があるとされています。高島地区に伝承されているものは近代以前に見られた盆踊りの形態を残しており、囃子方は太鼓・笛のみの伴奏で唄との掛け合いで行います。唄の歌詞は、労働歌を中心に民謡・俗曲・恋歌など、約190種類採録されています。踊りは二つの形態のものを一つの流れとして交互に行うのが特徴です。

小樽市では、踊りや唄だけではなく、毎年8月後

半に高島地区で開催される盆踊りの行事そのものを「高島越後盆踊りの行事」として、無形民俗文化財に指定しています。

現在も地域に根差した伝統行事として、地元町会によって結成された「高島越後踊り保存会」（昭和54年結成）を中心に、地元高島地区の人々の手によって、連続と保存・伝承されています。

●キーワード：越後衆と津軽衆

集団入植が行われなかったことから、特定の地域との結びつきが希薄であると言われる小樽において、高島は越後と津軽の風習が伝えられる地区である。同地区では、かつて、越後衆の盆踊りの時期に、盂蘭盆の施餓鬼行事から生まれた「行灯行列」が行われていた。これは津軽の山車の影響を受けたものである。



【写真】高島越後盆踊り